

工学院大学主催
第10回 高校生の建築フレッシュ・アイデア・コンペ

文の部門 優秀賞

「Happiest Place」

私立多摩大学附属聖ヶ丘高等学校 富村紗耶さん

『Happiest Place』

私は、人が集まる場所として『Happiest Place』を提案したいと思います。

今ある児童館を原点として、子供から高齢者の誰でも多世代の人が集まる事が出来る、あらゆるコミュニケーションの形を可能にする居場所を考えました。

モチーフは光の三原色です。三つの色で様々な色を作るように、沢山の人が集まって欲しいという願いで、三つの部屋をデザインしてみました。

人が集まる場所

私は、近所にあり、身近に感じている児童館を選びました。

私は小さい頃から、毎日のように近所の子供と集まって児童館を訪れていました。鬼ごっこをしたり、雲梯や鉄棒をしたり、サッカーをしたり、トランポリンにのったりして遊んでいました。工作や絵を児童館の人に教えてもらったり、卓球の相手をしてもらったりしました。鍵を忘れた時、児童館に行って親の帰りを待ちました。

思いっきり体を動かし、走ったり、飛び回ったりする事が出来る場所は、子供にとって何よりもかけがえのない場所です。人が集まる場所で、とても暖かくて素敵な場所なのです。少子高齢化に伴い児童館は廃止され、閉校した学校の再利用や、スペースごとに用途をわけるなどの分断化が進んでいます。しかし私は児童だけではなく、様々な世代の沢山の人がもっと集まれる場所にしたいと思い、考えてみました。

【児童館とは】

児童福祉法第 40 条に規定する児童厚生施設の一つです。昭和 40 年代から 50 年代にかけて、高度経済成長がもたらした子供事故の多発やいわゆる「かぎっ子」の増加などにより急激に増加しましたが、最近は減少しています。

児童館においては、子供・地域の状況に合わせ、お祭り、季節行事、体力増加、交流活動、工作活動などの多様な活動が行われており、乳児から中高生（0 歳から 18 歳）までの幅広い年齢を対象としている公共施設になっています。

現在は、子供の遊びの環境をセキュリティーや安全面など整備しないといけない中で、思いっきり体を動かして、子供がのびのび遊べる場を保証している『子供の大切な居場所』となっています。地域の中で子供の居場所・遊びの拠点となることを目指し、それを通して、子供の日常生活を観察し、必要に応じて、家庭や環境調整を図ることにより子供の日常生活を支援することを目的として運営しています。

【児童館の減少】

前述したように、児童館利用者の減少を見込み、近年児童館が減少しています。廃止・休館の理由は、老朽化、児童の減少、他の事業等との結合、政策の転換、財政理由などによるということです。

子供が少なく、高齢者を支える財源が不足しているのだから子供の予算を削るのは当然だ、子供に予算を多くとる事は税金の無駄、という考えがあるのでしょうか。

病院や学校と違い、なくてはならない施設ではなく、あったらいいなという施設だという課題があり、市としては維持するのが大変なので、経費を削減しようとする時に考えてしまうようです。

全国の市区町村における児童館の設置は、62%が設置、38%が設置なしです。(平成28年3月)

〈豊島区の例〉

豊島区では、児童館をすべて段階的に廃止しました。理由は下の表のように年々利用者の数が減少していることだと考えられます。幼児は区民ひろばの「子育てひろば」、小学生は「子どもスキップ」、中高生は「中高生センタージャンプ」の利用へ移行しています。「子どもスキップ」は学校施設を活用して、小学生を対象とする育成事業と学童クラブを総合的に展開する事業です。学校の教室、校庭、体育館等を活用して、自主的な参加のもとに遊びをとおして、子どもたちが交流を広げる事業です。区民ひろばを利用する際には、登録の手続きが必要です。

つまり、児童館がなくなることにより、「集まる場所」としての世代間が分断化されています。

項目\年度	23年度	24年度	25年度	26年度
児童館数	6館	5館	3館	2館
幼児利用者数	18,011	16,070	14,548	8,666
小学生利用者数	81,853	66,882	49,371	29,027
学童クラブ利用者数	55,174	48,549	45,850	27,993
中学生利用者数	4,765	4,766	2,925	1,064
付き添い等利用者数	33,374	26,581	23,955	13,912
合計	193,177	162,848	136,649	80,662

これは、政府が共働き家庭の増加を受け、小学生の居場所として、学校の活用を後押しする「放課後子どもプラン」を進めていることに関係しています。しかし私は、このようなやり方では、世代や目的によって集まる世代が分断されてしまうという点に大きな危機感を感じます。

杉並区でも廃止の議論がでています。他区でも類似企業との結合、廃止、再編の議論が行われています。今後の児童館の数は、減少していくとされています。

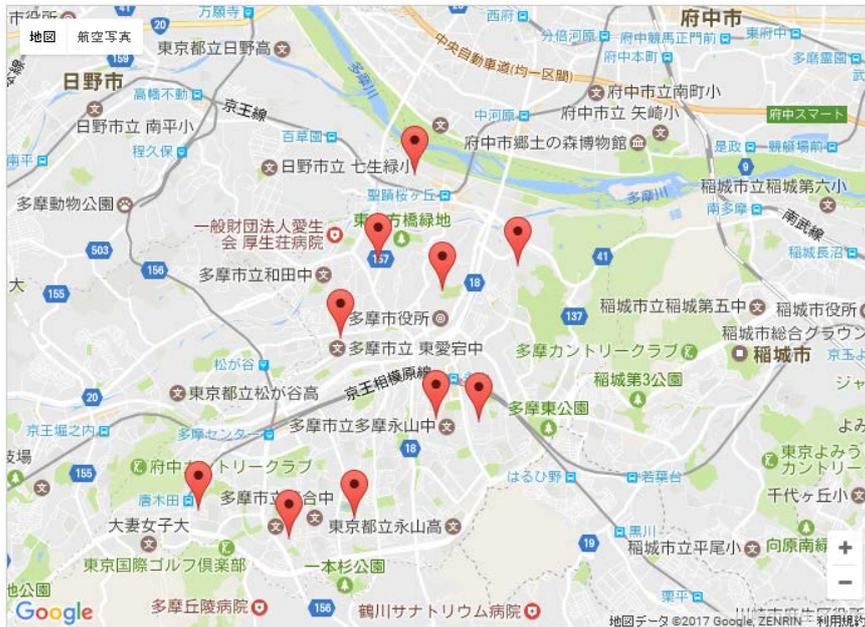
〈多摩市の例〉

私の住んでいる多摩市には現在 10 館の児童館があります。

平成 26 年に多摩市の桜ヶ丘児童館の廃止が検討され議論が起こりました。「桜ヶ丘児童館を廃止しないでほしい」という地域からの陳情があり、地域の方が協力して署名活動を行った結果、存続されることになりました。地域にある児童館の存在に子育てがどれほど助けられてきたか、そしてまた今、子育てをされていて児童館でママ友の繋がりが出来ている事、安心して子どもたちを遊びに行かせられる地域では唯一の場である事、児童館がなくなるとますます高齢化が進み、地域が寂れてしまうことへの不安・・・などの思いが住民にはある、と児童館、利用者の方が仰っていました。ここは駅から遠く、小学校に通うのも、低学年だと 30 分はかかってしまいます。避難所にもなるので、地域の方々は安心して暮らすことが出来るのだと思います。地域の方や、様々な世代の人とみんなでコミュニケーションをとる場所であること、これこそが、児童館の存在意義だと私は思います。



(多摩市の児童館)



【児童館の発展的な開放】

これまで述べてきたことを勘案し、私は児童館が担ってきた役割を存続させると同時に、幼児、小学生、中高生の融合化、コミュニケーションを多世代間でとる事のできる「みんなの居場所」が必要だと考えます。

放課後に訪れる中高生は複雑な年代です。体を動かしたくて、来ているかもしれないし、体育の練習の為に来ているのかもしれない。思春期の子供なら「何となく家にいたくない」と思う事が誰にでもあると思います。公園やコンビニより児童館なら安全な居場所です、しかも悩みを第三者の大人が聞くことが可能です。

学校は基本的に学校教育目的のための施設だから自由には入りは出来ません。学童は遊ぶことや掃除、下校時間などが決められていて、あまり自由とは言えず、学校とあまり変わりません。

また、働いている女性にとって子供の育児の拠点は保育園になりますが、働いていない専業主婦などは、一人で子育てに不安を抱えると思います。児童館の職員がママ友になり、子育てに対する相談や援助を行うことにより、地域の中で育児の拠点となることが出来ます。

高齢者にとって、孫を連れて来たり、子供の面倒を見たり、若いママの相談に乗ったりすることにより、居場所になると思います。

つまり、ここは子供だけではなく、色々な人の居場所になりうるのです。

提案

私は、多世代が集う場所として、『Happiest Place』を提案します。コンセプトは、誰でも自由に集まる事の出来る場所です。

まず外装です。私が外観を見た限り、児童館はどこも大抵建物が堅く学校みたいな入り口で、立ち寄りたいたいという気持ちを起こさせない気がします。むしろ写真を撮りたくなるようなお洒落な建物にすれば、立ち寄りたいたいと思います。入りやすくするため、入り口を分かりやすくして、門は造りません。穏やかな気分になってもらう為、綺麗な空気にする為、虫や鳥の為、周りは緑が沢山になるようにします。建物の正面にはテラスを作り、軽い軽食やコーヒーなどを飲めるようにします。カフェが目前にあり、自然の中で、綺麗な建物だと、誰だって入りたくなると思います。

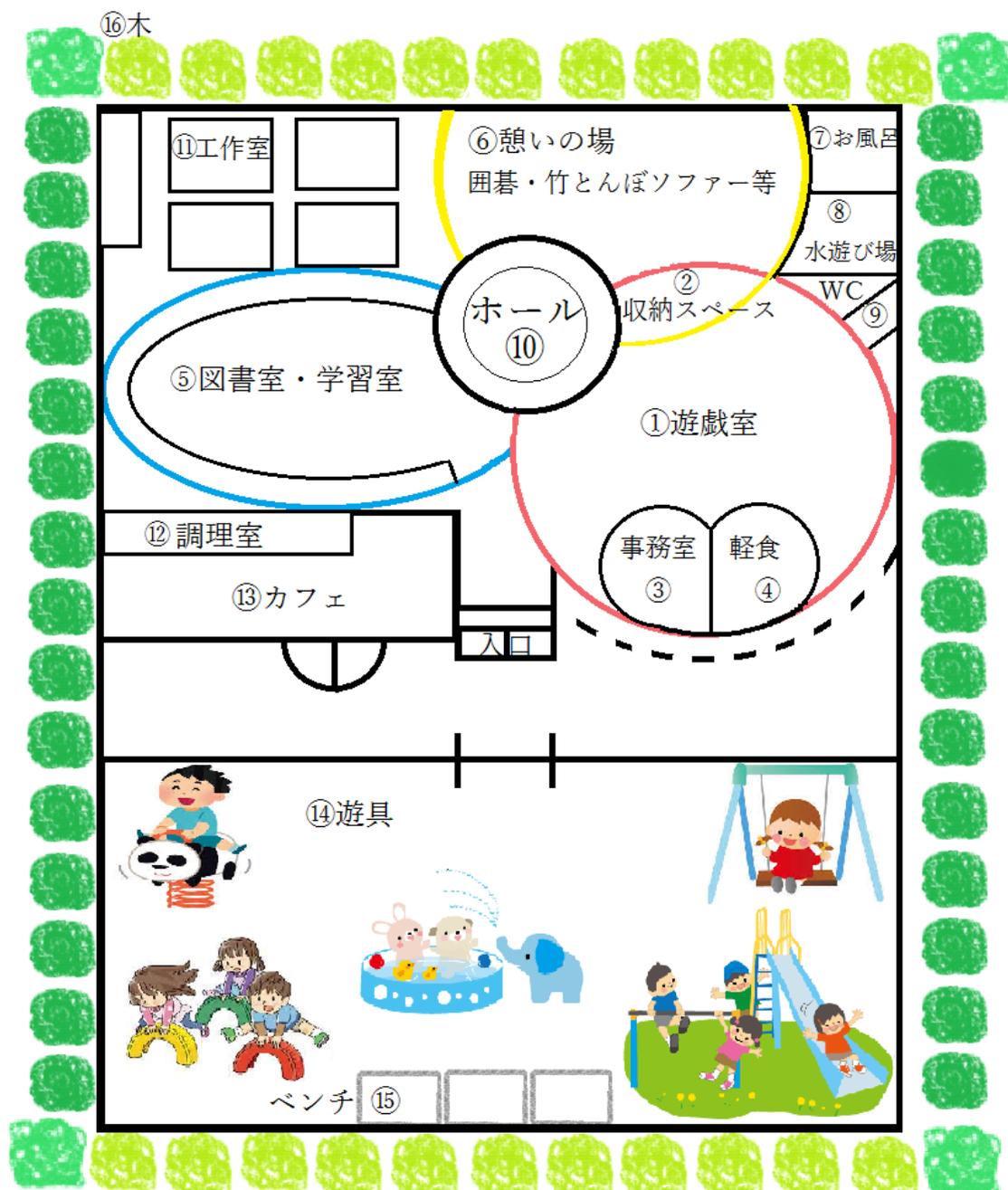
建物は二階建てです。施設の主な特徴は、3つの円形のスペースとそこがすべて見える丸い共通スペースです。イメージは、光の三原色です。なるべく人が一つの空間に集まることが出来るように、図の①、⑤、⑥のように、⑩のホールと書いてある所から三つの部屋が見えるようにします。すると、子供を見やすくなり、遊ばせる保護者も安心ですし、高齢者も入りやすくなると思います。①の遊戯室の中には、換気しやすいように大きな窓をつけ、壁にはボルダリング用の石を埋め込み、遊戯室の物が片付けられるように②に収納スペース、③に事務室と、④に軽食スペースを作ります。それによって、より安全に遊べるようになり、快適な休憩が可能になります。⑤はゆったりとした絨毯生地で寝そべることが出来、壁に沿って棚が取り付けられている図書館にします。⑥は主に高齢者の憩いの場で、囲碁や将棋をしたり、竹とんぼを作ったり、子供に色々な事を教えたり自由に出来ます。ソファを設置して、ゆったり過ごすことができます。⑦は自由に入る事ができるお風呂です。お風呂で癒された後、⑥の部屋でマッサージチェアに座ることができます。お風呂の横には⑧の小さいプールがあり、水遊びが出来ます。⑨には、広い誰でもトイレ、子供用のトイレ、大人用のトイレ。⑩は3つの部屋を見ることが出来、明るくするため、天井ではなく天窓にし、大きな円形の360度見渡すことが出来るソファを置きます。⑪の工作室には、匂いが籠らないようにガラスのスライドで開く扉を設置します。⑫、⑬の調理室、カフェは、目立つよう、遊具で遊んでいる子供を見る事が出来るよう、お祭りで食べ物を運びやすいよう、一番手前にします。⑭、⑮のエリアは外で、沢山の遊具とベンチです。遊戯室の外側の壁には、一輪車の練習が出来るよう手すりを付けます。⑯は児童館の周りの沢山の植栽です。外には、小さな木陰の下にベンチを置きます。

二階は比較的静かな場所にします。一階の絵本や紙芝居などが置いてある図書室とは違い、大人向けの図書室を作り、中には、自習スペースを作り、学生が自習出来るようにします。本があるので調べものをする事が出来ます。もちろん学生以外も使えます。そし

て、自治体や学校などが使えるような大きな会議室、茶道が出来る和室、ピアノを練習できる防音室があります。

地域の人が安心して生活できるように、夜でも明るく、周りで暮らす人にとっての光になるようにします。

そうすることにより、色々な世代の、沢山の人が集まることが出来ると思います。



【まとめ】

現在児童館のような施設が廃止されたり、似たような施設であっても、子供・中高生・大人・高齢者と利用者が分断化されたりしています。しかし、少子高齢化が進んでいる今こそ、人々が自由に誰でも集まる事が出来る場所が必要だと思います。児童館という名前だと、小さい子以外行きにくいし、逆に老人会という集まりだと、自分は老人だ、と思わず少し悲しくなるとおもいます。だから、私は『Happiest Place』という名前で、皆が幸せに、人が沢山集まれる場所を考えました。モチーフは光の三原色。人々が三つの色で沢山の色を作るように、多くの人が集まり、心あたたまる素敵な場所になると、地域も色鮮やかになるでしょう。